

2015年度 佐藤 淳一氏 サクソフォン特別講義

1. 日 時 : 2015年12月22日(火)13時30分～16時45分
2. 場 所 : O号館 101教室
3. 対象学生【必修】 : 大学院・大学専攻科・大学・短大
サクソフォン専攻・コース生 学内のみ他聴講可
4. 講師紹介 : 佐藤 淳一 氏

1981年千葉県生まれ。洗足学園大学を経て、同大学大学院管打楽器専攻首席修了。東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。「ルチアーノ・ベリオの肖像」と題した一連のリサイタル・シリーズと博士論文によりサクソフォン領域において日本初の博士号(Ph.D.)取得。在学中から演奏活動を開始し、オーケストラ・吹奏楽への客演、室内楽、ミュージカル、レコーディング、即興演奏などジャンルを問わず幅広く活躍する。東京藝術大学の推薦により、「奏楽堂デビューコンサート・シリーズ」でリサイタル・デビューして以降、トーキョー・エキスペリエントナル・フェスティバルにおけるリサイタル「ルチアーノ・ベリオの周辺」に対する受賞や、東京オペラシティ文化財団主催「B→C リサイタル」に出演するなどソリストとしても活躍する。自身のライフワークの一つである現代音楽には特に積極的に取り組み、L.ベリオのコンチェルト「レシ(シュマンVII)」やP.ブーレーズ「二重の影の対話」(サクソフォン版)、藤倉大「Reach Out」などを日本初演した演奏は特に高い評価を受けている。現在は震災における原子力発電所の事故を受けて脱原発やエコを目指し、ライブ・エレクトロニクス作品に電力会社の電気ではなく、太陽光発電での電力を用いる「ライブ・エコロニクス」という演奏活動も行っている。

また演奏活動の傍ら執筆にも力を入れ、大学院在学中から「パイパーズ」において現代奏法に関する連載を始め、執筆活動を開始。以降「THE SAX」や「バンドジャーナル」など、これまでに5つの連載をし、現在は「THE SAX」において「サクソフォニストのためのハロー・ワーク」を「バンドジャーナル」において「演奏に役立つワンポイントレッスン」を連載中。それ以外にも楽器ガイド、演奏会評、論文の寄稿、インタビュー、製品レビュー、曲目解説など執筆総数は100をゆうに超える。

海外における活動も多く、これまでにパリ・サクソ・フェスティバルやGAP夏期大学に参加し、パリ音楽院教授C.ドゥラングル、V.ダヴィットらのもと研鑽を積む。またスイス・バーゼルのパウル・ザッハー財団に滞在し、L.ベリオの手稿譜の研究に携わった。2012年にはニューヨーク・マンハッタン音楽院において講義と演奏を行い、同年には台湾・台北芸術大学においてもマスタークラスと講義を行ったほか、台湾各地にてコンサートを行った。2015年7月にはフランス・ストラスブールで開催された「ワールド・サクソフォン・コンGRESS」に出演。JacobTVへの委嘱作品「Ticking Time」を世界初演し、絶賛を博すなどその活躍は国内外に及ぶ。

これまでにサクソフォンを宗貞啓二、大和田雅洋、富岡和男、平野公崇の各氏に師事。北海道教育大学旭川校専任講師、岩見沢校兼担講師。博士(音楽) <http://saxolab.net>

5. 講義概要 : C.ドビュッシー及びL.ベリオの各楽曲について楽曲分析と演奏

- ① C.ドビュッシー「ラプソディ」についての講義
- ② L.ベリオの2つの「セクエンツァ」に関する講義